

## 人事異動の季節

4月は人事異動の季節です。今年の小中学校教員の人事では、4079人の教員が異動し、その内、35人が広域と称して他管内に異動しています。広域人事では、他管内に出た場合3年勤務すればまた元の管内に戻るになっています。

道教委では、この広域異動を100人規模で実施したいと考えているようですが、私は大変良いことだと思っています。

私自身、道庁におりました当時は、人事異動を通して随分と色々な仕事をしてきました。

登別市という他の自治体に派遣されたこともあります。

世間では、「他人の飯を食べさせる」とか「かわいい子には旅をさせよ」とかいいます。親元を離れ他人の間で苦労を味わうことは決して無駄にはならないということです。先人の言葉は実に含蓄があり、自分の経験からしてもその通りだと思えます。

自分のテリトリーの中ではどんなに元気があっても、一步外界に出ると、社会の冷たい風に当たらなければならないし、我が儘もきかないということで、したくない我慢もしなければならない。こうした経験が、自分を精神的にも強くしますし、何より、様々な考え方やルールがあることを身にしみて知ることが重要なのです。

学校というところは、教師にとっては忙しくて大変とかいいながらも、結構居心地が良いのではありませんか。モンスターペアレントがいたりして苦労する場面もあるでしょうけれど、基本的には子どもたちが相手の仕事ですから、常時、厳しい批判に晒されているわけではありません。その意味では、学校は、教師にとって外界から守ってくれるバリアでもあります。

「学校は教師にとってオアシス」などと、よもや考えている方はいないと思いますが、一つのルールの中に身を置き、それで何年も過ごせば、それが当たり前になってしまうということが往々にしてあるものです。

学校や子どもたちを取り巻く環境は、日々変化しています。しかし、学校の中では、その事をどの位敏感に感じ取り、対応しているのでしょうか。仮に、変えなければならないと感じることがあっても、面倒なことはあえてしないということもあるでしょう。それが許されていると感じるのは、学校というバリアが働いているせいだと思います。

ところが、人事異動で他の学校に行くと、今まで当たり前とっていたことが通じないということが当然起こってきます。まして、他管内に行くと、なおさらその感を深くするでしょう。

その戸惑いこそ貴重です。

戸惑い、そしてさまざま葛藤する中に自分が成長していく種があります。新たな学校で新しい自分に出会うこともあります。また、反対に、新たな教員を受け入れたことによってその学校が活性化し、変化するということもあります。

人事異動というのは、そういう副産物を沢山生み出すチャンスでもあります。勿論、そのチャンスを生かすかどうかは、異動した教員一人ひとりの考え方一つです。

そして、何よりも、人事異動によって学校が活性化し教員が成長したなら、その恩恵を一番に受けるのはその学校で学ぶ子どもたちであるということ、如何なる時も忘れてはなりません。（塾頭 吉田 洋一）